

## 市内最古、国内最古級の石器群を発見！

志木市教育委員会が実施した発掘調査で、後期旧石器時代初頭（約3万6千年前）のものと考えられる石器群が出土しました。

石器群は市内最古、国内最古級のものである可能性が高く、市史のはじまりを塗り替えるだけでなく、日本列島に人が住みはじめた頃の様子を知るための貴重な手がかりとなる発見になりました。

### 1 出土遺跡名・調査期間

名称：中道遺跡第101地点（柏町5丁目）

期間：令和6年5月20日～11月29日

### 2 出土遺物の概要

時代：後期旧石器時代初頭（約3万6千年前と推定）

遺物：打製石斧・剥片<sup>※1</sup>・砕片<sup>※2</sup>などを含む石器、計28点

石斧は旧石器時代に特有の石器で、この時期の石斧の出土は市内ではじめてです。

※1 原石から薄く打ち剥がしてできた石片

※2 剥片を打ち剥がした際に出た細かな石くず

出土層：立川ローム層第X層（地表下約2m）

立川ローム層は富士山などを供給源とする火山灰層で、地表より深くなるほど古くなり、第X層の年代は約3万5～6千年前とされています。

その他：石器群のほかに火を使用した痕跡と思われる炭化物の集中域が検出されました。

### 3 その他

当該資料を含めた調査成果をまとめた発掘調査報告書を令和7年度中に刊行予定です。  
なお、今後の整理作業や分析によって、評価が変更となる可能性があります。



▲石器出土状態



▲打製石斧出土状態



▲打製石斧（長さ13.5cm）と剥片

記者発表資料  
令和7年1月10日  
教育政策部生涯学習課  
生涯学習・文化財グループ  
志木市立埋蔵文化財保管センター  
担当者／大久保（主査）  
電話番号／048-473-8157